

故國の悪税なる 通行税は近く廃止

財政調査委員会で決定... 通行税の廃止は、交通の便を著しく増進し、商業の発達を促すことになり、故國の悪税なる通行税は、近く廃止されることになった。

大阪府下に於ける 長屋の貯金物語り

細民救済の方面委員刷新... 大阪府下の長屋に於ける貯金物語り。細民救済の方面委員刷新の動きが、長屋の生活にどのような影響を及ぼしているのか。

福岡に起つた 愛なき結婚の破綻

扶養請求の訴訟提起... 福岡に起つた愛なき結婚の破綻。扶養請求の訴訟提起が、夫婦関係にどのような影響を及ぼしているのか。

前石川縣知事の 妾腹の息子が萬引

京阪神に亘りて數十回... 前石川縣知事の妾腹の息子が萬引。京阪神に亘りて數十回の萬引行為が、社会にどのような影響を及ぼしているのか。

桑港南場農産物 稍々強氣

ストロベリー... 桑港南場農産物の相場が、最近少し強気になっている。ストロベリー、ブルーベリーなどの相場が、概ね上昇傾向にある。

日米協会歓迎會 四全權及實業團

七月半銀行俱樂部... 日米協会歓迎會の模様。四全權及實業團の参加が、日米関係の発展に寄与している。

求球場水店婦人 洗濯職工入用

求球場水店婦人、洗濯職工の入用。求球場水店の求人情報。洗濯職工の入用が、求球場の運営に不可欠である。

職業紹介 Y.M.C.A.

職業紹介 Y.M.C.A. 各種職業の紹介。Y.M.C.A.による職業紹介サービスが、求職者に大きな助けとなっている。

所員招聘し度し

所員招聘し度し 各種職種の招聘。所員招聘の求人情報。各種職種の招聘が、組織の発展に不可欠である。

馬車

馬車 馬車の販売情報。馬車の販売情報が、馬車愛好者にとって重要な情報となっている。

貸地

貸地 貸地の求人情報。貸地の求人情報が、不動産関係者にとって重要な情報となっている。

新古洋服古物店

新古洋服古物店 新古洋服の求人情報。新古洋服の求人情報が、ファッション関係者にとって重要な情報となっている。

取次販賣

取次販賣 取次販賣の求人情報。取次販賣の求人情報が、販売関係者にとって重要な情報となっている。

水晶印形取次

水晶印形取次 水晶印形の求人情報。水晶印形の求人情報が、印刷関係者にとって重要な情報となっている。

阿部耕作

阿部耕作 阿部耕作の求人情報。阿部耕作の求人情報が、農業関係者にとって重要な情報となっている。

宮本橋治

宮本橋治 宮本橋治の求人情報。宮本橋治の求人情報が、建築関係者にとって重要な情報となっている。

小澤武蔵

小澤武蔵 小澤武蔵の求人情報。小澤武蔵の求人情報が、製造業関係者にとって重要な情報となっている。

西洋治療所

西洋治療所 西洋治療所の求人情報。西洋治療所の求人情報が、医療関係者にとって重要な情報となっている。

NYK 船出帆廣告... (NYK shipping schedule advertisement)

乗船券 田村旅館... (Hotel advertisement)

和洋食料品雜貨 新亞細亞商會... (Grocery store advertisement)

御祝御佛専用 花月堂... (Buddhist temple advertisement)

御菓子司 花月堂... (Confectionery shop advertisement)

日米一讀者に 贈る... (Language learning advertisement)

英語辭典類 英語新聞社營業部... (Dictionary advertisement)

オキシヘーラー... (Oxyhealer advertisement)

オキシヘーラー... (Oxyhealer advertisement)

オキシヘーラー... (Oxyhealer advertisement)

オキシヘーラー... (Oxyhealer advertisement)

オキシヘーラー... (Oxyhealer advertisement)

オキシヘーラー... (Oxyhealer advertisement)

オキシヘーラー... (Oxyhealer advertisement)

オキシヘーラー... (Oxyhealer advertisement)

オキシヘーラー... (Oxyhealer advertisement)

オキシヘーラー... (Oxyhealer advertisement)

大正正樂 各種藥品... (Pharmacy advertisement)

各位々々御清福奉賀候 陳者本社主權在米日本人公共團體援助投票

米國木材の日本への輸入 十年間に廿倍増加

◆今後とも有望 山林局の調査報告 ◆ 日本産木材の輸入が依然として増加傾向にある

基督教徒聯合 靈交大會

◆本日夜青年會館 ◆ 基督教徒聯合會の靈交大會が本日夜青年會館で開かれた

結婚、離婚、再婚の統計

◆去月分の統計 ◆ 結婚、離婚、再婚の統計が去月分について発表された

耐久競争 一隻は直ぐ落伍

◆一隻は直ぐ落伍 ◆ 耐久競争の模様、一隻は直ぐ落伍した

◆価格が 接近する迄は 依然として継続される

◆放逐 △ 予選の結果、放逐された選手は...

花火取締

◆依然厳重 ◆ 花火取締の状況、依然として厳重である

加州發展協會の 活動写真日

◆活動写真日 ◆ 加州發展協會の活動写真日が行われた

補給金下附

◆郵便運送料名で ◆ 補給金下附の状況、郵便運送料名で支払われる

東行した

◆勘定を忘れ ◆ 東行した際の勘定忘れの注意喚起

娘の結婚難

◆法廷で決定する ◆ 娘の結婚難、法廷で決定する

◆結婚 △ 問題が夫人を苦しめた

重婚豫審

◆昨日羅府法廷で ◆ 重婚豫審の模様、昨日羅府法廷で開かれた

米國の映画輸出

◆三月には四十五萬部 ◆ 米國の映画輸出の状況、三月には四十五萬部輸出された

聖女長命者死亡

◆行年百三十一歳 ◆ 聖女長命者の死亡、行年百三十一歳で死亡した

素人芝居開演期

◆日本人商店街 ◆ 素人芝居の開演期、日本人商店街で開演する

御禮廣告

◆米新聞社主権の公共團體援助投票

◆結婚 △ 問題が夫人を苦しめた

御禮廣告

◆米新聞社主権の公共團體援助投票

御禮廣告

◆米新聞社主権の公共團體援助投票

御禮廣告

◆米新聞社主権の公共團體援助投票

御禮廣告

◆米新聞社主権の公共團體援助投票

御禮廣告

◆米新聞社主権の公共團體援助投票

御遊金 公債 株式 岩山商會

御禮廣告 御禮廣告 御禮廣告

御禮廣告 御禮廣告 御禮廣告

御禮廣告 御禮廣告 御禮廣告

御禮廣告 御禮廣告 御禮廣告

御禮廣告 御禮廣告 御禮廣告

東洋汽船株式會社

桑港旅館組合

御禮廣告 御禮廣告 御禮廣告

御禮廣告 御禮廣告 御禮廣告

御禮廣告 御禮廣告 御禮廣告

御禮廣告 御禮廣告 御禮廣告

御禮廣告 御禮廣告 御禮廣告

御禮廣告 御禮廣告 御禮廣告

御禮廣告 御禮廣告 御禮廣告

御禮廣告 御禮廣告 御禮廣告

御禮廣告 御禮廣告 御禮廣告

御禮廣告 御禮廣告 御禮廣告

米國雜誌記者の 攝政宮殿下拜謁記

鳥瞰圖式に拜見した謁見室
傳奇小説中に在る様な光景
中央に直立された殿下の雄姿

謁見室に入るに先立ち、正門の中央に、丁重に警備が施されて、入口は、一層更なる謁見室の入り口である。この入り口は、日本の宮中での謁見室の作法である。初めに、一階の入り口で、左に手を握り、右に手を握り、頭を下げた後、右の入り口で、頭を下げた。この入り口は、日本の宮中での謁見室の作法である。初めに、一階の入り口で、左に手を握り、右に手を握り、頭を下げた後、右の入り口で、頭を下げた。

三團體が聯合して 寄港を昨日請願す

在日米領事館を通過して海軍省へ
總領事館を通過して海軍省へ

三團體が聯合して、昨日、在日米領事館を通過して海軍省へ請願した。この請願は、米領事館を通過して海軍省へ請願した。この請願は、米領事館を通過して海軍省へ請願した。この請願は、米領事館を通過して海軍省へ請願した。

米兵歓迎の 準備成る

瓜生大將接待役
七月二日米兵の予定

米兵歓迎の準備が完了した。七月二日、米兵が到着する予定である。瓜生大將が接待役を務める。米兵歓迎の準備が完了した。七月二日、米兵が到着する予定である。瓜生大將が接待役を務める。

使用不可 州高等法院

州高等法院は、使用不可と判断した。州高等法院は、使用不可と判断した。州高等法院は、使用不可と判断した。州高等法院は、使用不可と判断した。

兒童種痘 本日限り

種痘の重要性を強調。種痘の重要性を強調。種痘の重要性を強調。種痘の重要性を強調。

威厳を 備へて御座る

威厳を備へて御座る。威厳を備へて御座る。威厳を備へて御座る。威厳を備へて御座る。

謁見室の 中央に

謁見室の中央に。謁見室の中央に。謁見室の中央に。謁見室の中央に。

八オンス容器 ストロベリ

八オンス容器、ストロベリ。八オンス容器、ストロベリ。八オンス容器、ストロベリ。八オンス容器、ストロベリ。

愈警察が活動開始 保護を願ひ特別捜査に護身

愈警察が活動開始。保護を願ひ特別捜査に護身。愈警察が活動開始。保護を願ひ特別捜査に護身。

故國新聞 對支不干涉

故國新聞、對支不干涉。故國新聞、對支不干涉。故國新聞、對支不干涉。故國新聞、對支不干涉。

故國新聞 對支不干涉

故國新聞、對支不干涉。故國新聞、對支不干涉。故國新聞、對支不干涉。故國新聞、對支不干涉。

米人死體 混に没れた

米人死體、混に没れた。米人死體、混に没れた。米人死體、混に没れた。米人死體、混に没れた。

西島假出獄 日系市民拘捕

西島假出獄、日系市民拘捕。西島假出獄、日系市民拘捕。西島假出獄、日系市民拘捕。西島假出獄、日系市民拘捕。

米領事館より 電報を打つ

米領事館より、電報を打つ。米領事館より、電報を打つ。米領事館より、電報を打つ。米領事館より、電報を打つ。

御菓子卸小賣 武田製菓所

御菓子卸小賣、武田製菓所。御菓子卸小賣、武田製菓所。御菓子卸小賣、武田製菓所。御菓子卸小賣、武田製菓所。

謝辭

謝辭。謝辭。謝辭。謝辭。

御禮廣告

御禮廣告。御禮廣告。御禮廣告。御禮廣告。

佛敎會學園 後援者各位

佛敎會學園、後援者各位。佛敎會學園、後援者各位。佛敎會學園、後援者各位。佛敎會學園、後援者各位。

飯屋新開業 美以英和學校

飯屋新開業、美以英和學校。飯屋新開業、美以英和學校。飯屋新開業、美以英和學校。飯屋新開業、美以英和學校。

大工道具 美以英和學校

大工道具、美以英和學校。大工道具、美以英和學校。大工道具、美以英和學校。大工道具、美以英和學校。

御佛事用 御菓子

御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。

新派晴友會青木譽志夫

新派晴友會青木譽志夫。新派晴友會青木譽志夫。新派晴友會青木譽志夫。新派晴友會青木譽志夫。

巴裁縫女學院

巴裁縫女學院。巴裁縫女學院。巴裁縫女學院。巴裁縫女學院。

谷靴靴店

谷靴靴店。谷靴靴店。谷靴靴店。谷靴靴店。

御佛事用 御菓子

御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。

御佛事用 御菓子

御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。

御佛事用 御菓子

御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。

御佛事用 御菓子

御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。

御佛事用 御菓子

御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。

御佛事用 御菓子

御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。

御佛事用 御菓子

御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。

御佛事用 御菓子

御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。

御佛事用 御菓子

御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。

御佛事用 御菓子

御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。

御佛事用 御菓子

御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。

御佛事用 御菓子

御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。

御佛事用 御菓子

御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。

御佛事用 御菓子

御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。

御佛事用 御菓子

御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。

御佛事用 御菓子

御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。御佛事用、御菓子。

ロサンゼルス(二日)
日本人街の中心に
活動の舞踏館
文芸部が中心に
文芸部が中心に

市第一の建物
布市第一の建物
布市第一の建物
布市第一の建物

南美以母の會
南美以母の會
南美以母の會
南美以母の會

芝居廣告
芝居廣告
芝居廣告
芝居廣告

日米新聞支社
日米新聞支社
日米新聞支社
日米新聞支社

東京俱樂部
東京俱樂部
東京俱樂部
東京俱樂部

養老保險
養老保險
養老保險
養老保險

吉田徳助
吉田徳助
吉田徳助
吉田徳助

日米讀者一割引
日米讀者一割引
日米讀者一割引
日米讀者一割引

御客様
御客様
御客様
御客様

王草野ホテル
王草野ホテル
王草野ホテル
王草野ホテル

布市ウエスタンホテル
布市ウエスタンホテル
布市ウエスタンホテル
布市ウエスタンホテル

星國ロスモス
冬野菜之特産地
30日農園
羅府谷越堀合名會社

養老保險
東一街三三三番
小野助四郎

新刊書籍到着
佐藤書店
電話一九六〇九

養老保險
東一街三三三番
小野助四郎

養老保險
東一街三三三番
小野助四郎

養老保險
東一街三三三番
小野助四郎

養老保險
東一街三三三番
小野助四郎

養老保險
東一街三三三番
小野助四郎

養老保險
東一街三三三番
小野助四郎

養老保險
東一街三三三番
小野助四郎

養老保險
東一街三三三番
小野助四郎

インマン議員の暴言不評判
心ある白人暴徒
多量の加州の政界に...

ユバシテの桃祭り
ユバシテの桃祭り
ユバシテの桃祭り
ユバシテの桃祭り

盗んで来た
盗んで来た
盗んで来た
盗んで来た

短銃を弄びて
短銃を弄びて
短銃を弄びて
短銃を弄びて

スーパーストーン
スーパーストーン
スーパーストーン
スーパーストーン

開業六周年
大賣出し
平岡商店

UNION SALES COMPANY
純獨逸製
安全射撃出来る自動的の散弾銃

家具
東西南北家具店
東西南北家具店

皮膚病
櫻府日本銀行
各種苗木販賣

櫻府旅館組合
櫻府旅館組合
櫻府旅館組合

櫻府商店
櫻府商店
櫻府商店

Ratification is Dragging.

MANY TREATIES WERE FORMULATED by the Washington conference, said The Japanese American News in Japanese last Tuesday, but as yet not all of the nations which participated have ratified them.

Japan undoubtedly will ratify the treaties eventually, but to date she has continued to scrutinize them most carefully. We know there is a mountain of work to be surmounted before the translations of the treaties can be finished, and before the privy council, where the foremost scholars and authorities on diplomacy are gathered. It is because of them that so much time has been devoted to the process of ratification.

Most backward of all the countries in ratifying the treaties is France. The combination of Germany and Russia has her frightened to death. This has been shown at the Genoa conference. France regards Germany and Russia as two monsters, and what she fears most is that they shall join forces, for each is attracting the other and they are drawing closer together day by day.

No nation can blame France for being suspicious when this situation presents itself. France's naval power ratio is but 1.75 against 5 for England, and it now appears as though England were backing Russia and Germany—a combination naturally calculated to harass France. Drawing our conclusions from this situation, we believe France will retard ratification until she shall have sensed the spirit of the coming Hague conference.

Italy follows the lead of France in almost everything. Never will she pioneer in treaty signing and ratify the Washington documents before the signature of France shall have been affixed to them.

Meanwhile the limitation of naval armaments, which the peoples of the world so sincerely desire, is checked by the cyclonic politics of Europe. Why this state of affairs?

The chief reason lies in the invitation extended to France, Italy and other nations to attend the Washington conference, where their interests were slight in comparison with those of the three greatest naval powers, America, England and Japan. These three were practically the only nations that could grapple with the problem of naval limitation.

Recently it seems as though the nations have felt in duty bound to retard treaty ratification. The United States herself has shown an example of this. When the United States Senate was considering the treaties the New York Evening Post dubbed the Senate debaters "scholars of English grammar."

Very pat. They make a puzzle of a simple problem, attach a lengthy explanation to it in the form of a reservation—and are proud of their work. This not only is foolish but sets a bad example of diplomacy for the nations.

Among the privy councilors of Japan there are many grammar sharks. Especially those members who were chosen from the ranks of scholars know nothing of the delicate points of diplomacy and politics and pay too much attention to the wording of phrases.

American diplomats forever are talking of radically improving the old style diplomacy, but on the other hand they are establishing harmful precedents. Japanese are good imitators, and they copy the American way quickly.

The sooner ratification shall be carried out by the proper bodies of the nations participating in the Washington conference for the limitation of armaments and other causes, the happier we all shall be.

Japanese in California.

The following is a free translation of an editorial published recently in the Nichi Nichi, one of Japan's leading newspapers:

THE JAPANESE RESIDENTS OF CALIFORNIA are always ill at ease on account of the unlawful anti-alien land bill of California. Some of them withdrew from their residence in America and others sought more lucrative employment by selling their farms and orchards, the crystallization of hard work of many years, for a mere song.

The Ashio branch of the Miners' Association has among its workers Mr. Ishiyama, Mr. Sekiya, Mr. Kani, Mr. Kimura and Mr. Murashima. Mr. Nishio, who was formerly a laborer himself and then a leader in the reformation of the Yuaikai, is one of the most reliable and best-informed of labor's champions, having had a varied experience with life in California.

Japan's Attitude Toward China.

The Hochi, one of Japan's largest newspapers, said recently:

THE MUKDEN TROOPS were easily defeated by the Chihli army and were forced to beat a retreat. Chang Tso-lin's defeat brought a signal change in the central political circles of China. The Mukden faction, the old Communications party, and the new Communications party including Tsao Yu-lin and Liu Tsun-yu (acknowledged pro-Japanese elements) lost their power and Chang Tso-lin, prime mover in the warfare, Premier Liang Shih-yi, and others who espoused the cause of the Mukden faction will be accused of civil war crime.

Anxiety is entertained in certain quarters to the effect that the ascendancy of Wu Pei-fu at the expense of Chang Tso-lin might lead to difficulties in Sino-Japanese relations and propaganda is being spread in the capital that Chang's defeat will have a serious bearing upon Japan's position in relation to China. The government, which lacks a fixed principle and statesmanship in foreign policy, is now inclined to be led astray by this reckless propaganda.

These alarmists may think that Japan's position in China can be firmly secured by rapprochement with an influential faction in that country and that China must be unified under one big power. This policy, with its sole object to establish one party or faction, has ended in a fiasco in the past and each time Japan has had a bitter experience. Japan's policy towards China, which aimed at assistance of Tuan Chi-jui and his following, was frustrated when the Terauchi cabinet was in power and Japan is still ruing the consequences.

Eighteen provinces of China are in a state of independence and it is as clear as day that the unification of China is absolutely impossible through one faction. China's unification must pass through various stages, first by abolition of the tuchunship system, second by provincial autonomy and third by the establishment of one stable central government.

Takahashi Ministry Assailed.

PREMIER TAKAHASHI'S fond hope of Cabinet reconstruction is most likely to be shattered by the dogged tenacity of principle by the non-reconstruction party of the Seiyukai, asserted the Hochi recently. Rumors are rife to the effect that the Takahashi Ministry will go through the formality of tendering a resignation and then form a new Cabinet under Imperial instructions. The Emperor's confidence in the Takahashi Ministry is much questioned. Moreover, the Seiyukai Ministry enacted such a turbulent scene on the political stage that no hope is entertained of saving the situation. Notwithstanding this, it still intends to stick to power with grim tenacity on the pretext of the Imperial order. Its sin is unpardonable in

JAPAN'S LABOR LEADERS

The laborers of Japan have celebrated three May Days, writes Mr. Juzo Takata in the Taiho. Recalling the May Days of other years, we find that admirable progress has been made this year. Hearty appreciation is due the labor leaders who have sacrificed everything in the hope of bettering society. The names which are given here will be memorable in connection with the history of labor in Japan, which has assumed striking significance of late.

Mr. Bunji Suzuki, honorary president of the Japan Labor Federation and president of the Japan Labor College, is by all means the foremost labor leader in the Empire and the man whose name should be mentioned first. No one will deny that his struggle against odds during the last ten years has been the greatest benefactor of the labor movement in Japan. We are grateful that the rumor of his contemplated running for the House of Representatives has not been realized, for we fear that such an action on his part would be interpreted as rash and inconsiderate.

The Japan Labor Federation is proud of Mr. Kamakichi Matsuoka, its treasurer. He was formerly a bath-man. His valuable services, his untiring engagement to the cause of the laborer, his appreciation of every member. He had bitter experiences, however, in the recent Yokohama dockyard trouble. It would seem that able accountants are not always competent leaders in action.

ONE LEADER RETIRES. Mr. Akamatsu was formerly a member of the Shinjinkai, but is now with the Federation, for although most of the members of the Shinjinkai went to labor, editing for a time the "Labor Federation." He is one of the most promising fighters today. We wish to congratulate him upon his engagement to the daughter of Professor Yoshino of the Imperial University, a noted liberal advocate of modern Japan.

It is a great pity for labor circles that Mr. Tanabashi has retired from active service, because of his engagement to the daughter of Professor Yoshino of the Imperial University, a noted liberal advocate of modern Japan.

It is a great pity for labor circles that Mr. Tanabashi has retired from active service, because of his engagement to the daughter of Professor Yoshino of the Imperial University, a noted liberal advocate of modern Japan.

Mr. Yamamoto and Mr. Takata are leaders in the Tokyo Blacksmiths' Association. Mr. Yamamoto, who was formerly a laborer himself and then a leader in the reformation of the Yuaikai, is one of the most reliable and best-informed of labor's champions, having had a varied experience with life in California.

Mr. Kimura, who had been in retirement for some time, has recently been elected president of the Kansai Labor Union. Mr. Nishimura is a writer for one of the Osaka daily papers, being a distinguished author and student of social problems whose sympathies are always with the laborer.

Mr. Tsuki, Mr. Sakaguchi and Mr. Yasuda are representatives of the Kokkaido miners, and are quite as brave and useful as are the Ashio leaders.

Mr. Nishio, Mr. Kimura and Mr. Murashima are members of the Osaka branch of the Japan Labor Federation. Mr. Nishio won general recognition through his successful activity in connection with the great strike there last year. He is merely a laborer, but there are few who can surpass him for thought and ability.

Mr. Kimura, who had been in retirement for some time, has recently been elected president of the Kansai Labor Union. Mr. Nishimura is a writer for one of the Osaka daily papers, being a distinguished author and student of social problems whose sympathies are always with the laborer.

Mr. Tsuki, Mr. Sakaguchi and Mr. Yasuda are representatives of the Kokkaido miners, and are quite as brave and useful as are the Ashio leaders.

Mr. Nishio, Mr. Kimura and Mr. Murashima are members of the Osaka branch of the Japan Labor Federation. Mr. Nishio won general recognition through his successful activity in connection with the great strike there last year. He is merely a laborer, but there are few who can surpass him for thought and ability.

Mr. Kimura, who had been in retirement for some time, has recently been elected president of the Kansai Labor Union. Mr. Nishimura is a writer for one of the Osaka daily papers, being a distinguished author and student of social problems whose sympathies are always with the laborer.

Mr. Tsuki, Mr. Sakaguchi and Mr. Yasuda are representatives of the Kokkaido miners, and are quite as brave and useful as are the Ashio leaders.

Mr. Nishio, Mr. Kimura and Mr. Murashima are members of the Osaka branch of the Japan Labor Federation. Mr. Nishio won general recognition through his successful activity in connection with the great strike there last year. He is merely a laborer, but there are few who can surpass him for thought and ability.

Mr. Kimura, who had been in retirement for some time, has recently been elected president of the Kansai Labor Union. Mr. Nishimura is a writer for one of the Osaka daily papers, being a distinguished author and student of social problems whose sympathies are always with the laborer.

Mr. Tsuki, Mr. Sakaguchi and Mr. Yasuda are representatives of the Kokkaido miners, and are quite as brave and useful as are the Ashio leaders.

Mr. Nishio, Mr. Kimura and Mr. Murashima are members of the Osaka branch of the Japan Labor Federation. Mr. Nishio won general recognition through his successful activity in connection with the great strike there last year. He is merely a laborer, but there are few who can surpass him for thought and ability.

Mr. Kimura, who had been in retirement for some time, has recently been elected president of the Kansai Labor Union. Mr. Nishimura is a writer for one of the Osaka daily papers, being a distinguished author and student of social problems whose sympathies are always with the laborer.

Mr. Tsuki, Mr. Sakaguchi and Mr. Yasuda are representatives of the Kokkaido miners, and are quite as brave and useful as are the Ashio leaders.

Mr. Nishio, Mr. Kimura and Mr. Murashima are members of the Osaka branch of the Japan Labor Federation. Mr. Nishio won general recognition through his successful activity in connection with the great strike there last year. He is merely a laborer, but there are few who can surpass him for thought and ability.

Mr. Kimura, who had been in retirement for some time, has recently been elected president of the Kansai Labor Union. Mr. Nishimura is a writer for one of the Osaka daily papers, being a distinguished author and student of social problems whose sympathies are always with the laborer.

Mr. Tsuki, Mr. Sakaguchi and Mr. Yasuda are representatives of the Kokkaido miners, and are quite as brave and useful as are the Ashio leaders.

Mr. Nishio, Mr. Kimura and Mr. Murashima are members of the Osaka branch of the Japan Labor Federation. Mr. Nishio won general recognition through his successful activity in connection with the great strike there last year. He is merely a laborer, but there are few who can surpass him for thought and ability.

Mr. Kimura, who had been in retirement for some time, has recently been elected president of the Kansai Labor Union. Mr. Nishimura is a writer for one of the Osaka daily papers, being a distinguished author and student of social problems whose sympathies are always with the laborer.

Mr. Tsuki, Mr. Sakaguchi and Mr. Yasuda are representatives of the Kokkaido miners, and are quite as brave and useful as are the Ashio leaders.

Mr. Nishio, Mr. Kimura and Mr. Murashima are members of the Osaka branch of the Japan Labor Federation. Mr. Nishio won general recognition through his successful activity in connection with the great strike there last year. He is merely a laborer, but there are few who can surpass him for thought and ability.

ADVICE REGARDING MARRIAGE.

THE Japanese magazine Josei Nihonjin publishes imaginary correspondence on the marriage question. The following translation will give an idea of how a modern Japanese regards this problem:

Dear —, I have been very restless in visiting and writing to my friends these days. Really I am bound to finish some long overdue copy for the publishers. I cannot find any time to call on you now, though I shall meet you one of these days.

For the present I want to write you, taking advantage of a little time just before starting a new piece of work. I want to tell you of the proposed marriage. I do not know definitely, but mother told me you decided to marry my cousin. I remember you proposed for her about a year ago, and her people decided to leave the matter to the judgment and mutual understanding of you both. They have been waiting for you to decide. But you were very sluggish during these times, the reason of which you told me last July by confessing your love for Miss K—. I knew there was nothing unnatural in your love for Miss K— and I agreed with you.

Do you think I can calmly hear now of the coming wedding? I wish I might congratulate you, but I cannot. Did you not love Miss K—? You met her first when she was only 15, too young to think of love. She was nice and showed irresistible charm and her bright and honest nature could not arouse any ill feeling in anybody. Everyone loved her. Even your rustic mother was not rejected by her. Her tenderness—the instinct of a girl—look you to the Ginza and to Hibiya Park. When you looked lonely she urged you to come out and took you to visit the grave of General Kuroki. You may now laugh at this, but you were grateful then.

YOURINE'S MIRACULOUS RECOVERY. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

THE SHOJO'S WHITE SAKE

THE SHOJO is a sea monster with hair of a brilliant red. He is given to drinking large quantities of sake of the sacred white variety.

On the day following the miraculous appearance of Mount Fuji a poor man named Yurine, who lived in the vicinity of the mountain, fell extremely ill. Believing his days were numbered, he wished to drink a cup of sake before he died.

There being no rice wine in the little hut, Koyuri, his son, desiring to fulfill his father's dying wish, wandered along the shore with a gourd in his hand. He had not gone far when he was startled to hear his name called out. Looking about him, he saw two strange creatures with long red hair and skin of the pinkness of the cherry blossom, wearing girdles of green seaweed about their loins. Drawing nearer, he perceived that these beings were drinking white sake from large flat cups. Beside them was a great stone jar filled with the wine.

"Sirs," said the boy, "my father is dying. It is his earnest desire to drink one cup of this before departing his life. But alas! we are poor, and I know not how to grant him this, his last request."

"I will fill your gourd with this white sake," replied one of the creatures. He did so, and Koyuri ran back with all haste to his father.

Eagerly the old man drank the wine. "More, lad, more!" he cried. "This is no common wine. Already it has given me strength. I feel new life flowing through my old veins."

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

Yurine had a neighbor named Mamikiko. When the latter heard that Yurine had obtained a good supply of sake he became jealous, for of all things he loved his cup of wine. Mamikiko called to Koyuri one day and asked the lad about the wine. "Let me taste the sake to see if it is good," he begged. But the boy was loath to give it him, and Mamikiko roughly snatched the gourd from the boy's hand and began to swallow the wine in great gulps, making a very ugly face the while.

Yurine's Miraculous Recovery. Returning to the seashore, the boy again begged the red-haired creature for wine and again she complied with his request. For five days Koyuri made little pilgrimages from his father to the seashore, and at the end of that time Yurine was completely restored to health.

"No, sir," the boy wailed, "but I have met with misfortune. This morning here, Mamikiko, drank the sake, spat it out and threw the rest away. He declares I played a trick on him and gave him to drink foul water. Wherefore, will you be so good as to let me have some more sake for my poor father?"

One of the red-haired men filled the boy's gourd, chuckling the while over Mamikiko's experience. "Please," said Mamikiko,